

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第1区分

【発行日】平成27年5月14日(2015.5.14)

【公開番号】特開2014-47762(P2014-47762A)

【公開日】平成26年3月17日(2014.3.17)

【年通号数】公開・登録公報2014-014

【出願番号】特願2012-193796(P2012-193796)

【国際特許分類】

F 01N 1/08 (2006.01)

F 01N 1/00 (2006.01)

F 01N 13/08 (2010.01)

B 62M 7/02 (2006.01)

【F I】

F 01N 1/08 B

F 01N 1/00 D

F 01N 1/08 H

F 01N 13/08 B

F 01N 13/08 G

B 62M 7/02 J

【手続補正書】

【提出日】平成27年3月27日(2015.3.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

本発明において、さらに、前記チャンバ膨張室を貫通して排気通路の一部を形成する貫通パイプを備え、前記貫通パイプの周壁に前記膨張室と連通する連通孔が設けられていることが好ましい。この構成によれば、共鳴効果を利用して、特定の周波数帯の消音効果を高めて、さらなる消音効果を得ることができる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0031】

図4に示す排気消音装置34は、上流側の前記排気チャンバ82と下流側の前記マフラー84とを有し、排気チャンバ82の外周壁とマフラー84の外周壁とが、共通のケーシング体69により形成されている。ケーシング体69は、排気チャンバ82の外周壁全体およびマフラー84の外周壁の前部(上流部分)を含む第1ケーシング86と、マフラー82の外周壁の後部(下流部分)を含む第2ケーシング88とを有する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0051

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0051】

図4に示すように、チャンバ膨張室90を通過する貫通パイプ104の周壁に、チャンバ膨張室90と連通する連通孔106が設けられているので、共鳴効果を利用して、特定の周波数帯の消音効果を高めて、さらなる消音効果を得ることができる。